

# 第39回ISO総会の報告

2016年10月18日

経済産業省

産業技術環境局 国際標準課長

藤代 尚武

## I ISO総会開催概要

- 9/12-13日、中国・北京において、ISO総会が開催。日本は、友野JISC会長(新日鐵住金相談役)をヘッドとする代表団が出席。
- ブレイクアウトセッションでは、ISOが取り組むべき分野について、メンバー間で意見交換。
- 「イノベーション・持続可能な開発目標と標準化」、「ISO地域関与戦略」に関するパネルディスカッションを実施。
- 総会のマージンで、米、カナダ、独、シンガポール、豪、英との二国間会談を実施。

## II ブレイクアウトセッション 結果ポイント

### (1)「公的当局の関与」セッション

- NSBが国際規格の開発及び活用において公的当局を如何に関与させていくべきなのかを議論。政府の主要会議(G20等)の活用、規制との連携、中央事務局のハイレベル人員の各国の訪問などを有効な手段として紹介。

### (2)「サービス」セッション

- 当該規格を普及させるため、発行及び開発過程において、ISO事務局と会員団体がどのように連携できるかを議論。規格開発におけるルールや手続きの在り方、ステークホルダーへの情報共有、将来的なトレンド等をテーマに意見交換。

### (3)「影響力の大きいISO規格の発行」セッション

- 影響力の大きいISO規格(ISO50001:エネルギーマネジメント 等)の効果、普及のためにISO事務局と会員団体の連携について議論。中央事務局のコミュニケーション戦略、各国でのプライオリティの戦略の構築等の事例を紹介。

### (4)「ISOガバナンス見直し」セッション

- ISOのガバナンスの中で、透明性と効率性の適切なバランスが重要である旨紹介。また総会の有効活用、理事会への会員団体の意見の吸い上げ機能についてさらなる検討が必要との認識を共有。

3

## III パネルディスカッション 結果ポイント

### イノベーション、持続可能な開発目標と標準化

- 世界的課題への取り組みに貢献しうる“イノベーション”において、国際標準がどのような役割を果たせるか、国際及び中国国内の専門家(EPEA、CNIS、WIPO)を迎え議論。
- 持続可能な開発において国際標準は重要なツールであり、ISOが他国際機関・公的機関・民間企業と連携を強化することが重要との認識を共有。

EPEA : Environmental Protection Encouragement Agency

CNIS: China National Institute of Standardization

WIPO: World Intellectual Property Organization

### ISO地域関与戦略

- シンガポール地域事務所の事例及び今後の活用を強化する旨紹介。
- 各地域標準化機関等から近年の活動を報告。PASCからは、中小企業(MSMEs)の巻き込みの強化、サービス標準等の取り組みを紹介。
- 各国及び機関より、各地域の活動を支援するシステム構築が必要との意見有り。

4

## IV ISO総会開催中の二国間会談の概要

- アメリカ(ANSI):  
サービスの標準、日米の協力関係の強化等を議論。
- カナダ(SCC):  
イノベーションに係る重点プロジェクト等、関心分野について議論。
- ドイツ(DIN)  
インダストリ4.0について議論。
- シンガポール(SPRING):  
サービス・高齢社会分野の協力、ISO地域事務所等を議論。
- 豪州(SA):  
規格の普及、ブロックチェーンの標準化、ISO地域事務所の活用を含む地域の連携等について議論。
- イギリス(BSI):  
規格の普及、EU離脱の影響、政府との連携等について議論。

5

## V その他

- 次期会長にJohn Walter氏(カナダ)が就任(任期:2018年~2019年)。
- 次期副会長(財政)にBronwyn Evans氏(豪)が就任(任期:2017年~2018年)
- 2017年のISO総会は、ベルリンで開催。2018年はジュネーブで開催予定。



6

# 御清聴ありがとうございました。

経済産業省 ～「標準化・認証」の紹介ページ

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/kijyun/index.html>

日本工業標準調査会 (JISC) ホームページ

<http://www.jisc.go.jp/>